

資料編 瀬戸内海歴史民俗資料館蔵本『四國邊路道指南』

内 田 九州男

解題

本書の寸法は縦一五・五cm、横一〇・五cm、紺表紙、題簽なし、本文片面六行、挿図あり。版心は「四國道指南序」・「四國道指南」、内題「四國邊路道指南」、表表紙の裏（見返し）に弘法大師御影（画像）を掲げる、巻末には真念の跋文がある。そこに「貞享丁卯冬十一月有弁真念敬白」とあり、これによって本書は貞享四年十一月に版行されたと判断されている。本屋関係は本文末尾に「本出ス所北久太郎町心齊橋筋本屋平兵衛」とある。

次に本書の丁数について。序文（版心「四國道指南序」）は一〇九丁と又九で合計十丁、本文丁付けは「一」で始まり、最終丁は「百四十六」と判断される。そしてその間に、又九、又卅六、五四ノ四、又五九、又六六、又八六、又百八、又百四十一の丁付けで各一丁が挿入されている。本書の丁数および挿入丁を赤本文庫本（以下赤木本）と比較すると、様々な問題点が出てくることが予想されるが、残念なことに赤木本（原本）は現在所在不明でそうした比較はできない。最後に本書より刊行時期が古いとされる赤木本は既に触れたようにその原本にあたることはできず、影印本に頼るしか方法がない。しかし影印本では丁付け等は確認できない場合が多く、そうした要請に応えることはむづかしい。

今回本書を翻刻したのは、四國邊路の歴史研究に不可欠である『四國邊路道指南』の原本の一つとして本書が広く認知されることを期待したからである。

凡例

1 本稿は瀬戸内歴史民俗資料館蔵の『四國邊路道指南』の翻字である。内田が二〇〇八年四月デジタルカメラで撮影した画像によって読みを作成した。本書よりも刊行時期が古い赤木本の影印本が既に刊行されており、『四國霊場記集別冊』、その解説中に「四國邊路道指南（抄）」として「釈文」が収録されているが、今回翻字する文字の確定にあたってはその「釈文」を参照した。

2 瀬戸内歴史民俗資料館蔵の『四國邊路道指南』は表紙は表裏ともそろっており、本文も用紙の破損はなく保存状態は良好である。しかし一部に紙魚による文字の破損がみられる。その判読不能の部分は□等で示し、註で赤木本（影印本）の文字を示した。

3 原本は多くの「振仮名」をともなっているが、本稿では、札所の名称に付された振仮名を採録し、札所名にそれがない場合は、その直近にある札所名とその「振仮名」を採録した。尚一部地名等で、「振仮名」を採録した場合もある。

4 原本は一行十五字前後で印刷されており、一行をそのままの字数で組むと余白の多いものになるので、原本の字数を無視して、全体の体裁と札所ごとの記述のまとまりを配慮して組んだ。

翻刻

四國邊路道指南序

一此道しるべのなれる事は。真念法師五相三密の繩牀を出て。南海千里の金場を踏れしに。多岐羊腸行脚のきもをけし。杳に人家なくして八岩もる水に枕をかたむけ。遠く客舎を絶てハ。山を帶雲をしとねとせられしまゝに。迷方をはれむ心せちに。ふたゝびみたひ烏藤をめぐらし。谷ふかく又濱をつくし。聞て書見てしるされ。九々にあまる寺號村つゞき。道の遠近を。いちじるしく一卷の珎となりぬ。これを梓にことぶきして。あまねく扶桑にほどこさんと。せられし衣鉢の外に餘長なくむなしくやみなむ事をかなしまれけるに。大坂野口氏實財を大師の恩海になげられしかバ。つゝに求願事たりぬ。余又御廟の側に年月侍るまゝ咒力久しく弘通の善巧ならむかしとしゐて清書をこはるいなむ事を高祖の奉為にわすれて疎懶の塵を手向水の邊へ拂修法のいとまゝ尼妙心も見やすく童児もきゝやすきやうに省畧するものなり

南無遍照金剛

寓居高野山奥院護摩堂本樹軒主洪卓謹書

一巡禮の道すちに迷途おほきゆへに十方の喜捨をばげまし標石を建おくなり東西左右のしるべ并施主の名字彫刻入墨せり年月をへて文字落なバ邊路の大徳并

其わたりの村翁再治所奉仰也

一此道しるべの外八十八ヶ所の縁起寶物等其住侶／＼の御方より事書を乞請四國徧札靈場記全部四卷高野山雲石堂主本大和上の筆削をもて板行せしむるなり此道しるべの中には拜所ごとの外村つゝき旧跡并由來諺等を書載せたり一此道しるべの中村々の隔に○を印す也

用意の事

札はさみ板 長六寸

幅二寸

おもて書やう

年号月日

ユ 奉納四國中邊路同行二人

うらかきやう

ユ 南無大師遍照金剛 国郡村

假名印

右のことくこしらへるなり 但し文箱にしてもよし

紙札調やう

奉納四國中邊路同行二人

札はさみの懸やう順にめぐる時は字頭を左にし逆のときハ右にかくるなり

一帯札うち様の事其札所本尊大師太神宮鎮守惣して日本大小神祇天子將軍國主々君父母師長六親眷屬乃至法界平等利益と打べし常に同行の恩得を感じ宿札茶札用心有べし男女ともに光明真言大師の宝號にて回向し其札所の歌三遍よむなり

註①札の文字の上部に「一」らしきものがある。墨書かどうかは不明。

一負俵めんつう笠杖ござ脚半足半其外資具心にまかせらるへし惣して足半にてつとむべしといひつたへたり草鞋は札所ことに手水なき事有て手を汚すゆへに但草履わらうつにてもくるしからず

一此道指南并靈場記うけらるべき所ハ

△大坂心齋橋北久太良町本屋平兵衛

△同所 北ノ御堂前 河内屋新三郎^②

△阿州徳嶋新シ町 信濃屋理右衛門

△讃州丸龜塩飽町 鍋屋伊兵衛

△豫州宇和嶋満願寺 此満願寺八十八ヶの中にあらず。といへども大師草創の梵宮にて往昔は大伽藍なりしが破壊年久しく盡るになん／＼とす今出す所の靈場記道志留邊両通の料物をあつめ彼寺九牛が一毛修理せむ事それかし惣天の別願なり

南无遍照金剛 眞念 敬白 落款

註②この人名は赤木本には「江戸堀 阿波屋勘左衛門」とある。

(この間図2頁あり)

佛像文字共 大阪北久太郎町心齋橋筋板木屋

并邊路札有 五郎右衛門刊之

四国邊路道指南全

一摂州大坂より阿州徳嶋へ渡海の時ハ江戸堀阿波屋勘左衛門方にて渡り様次第可相尋之

白銀貳匁 徳島まで船賃 但海上三拾八里

一同所より讃州丸龜へ渡海の時ハ立賣堀丸龜屋又右衛門同藤兵衛かたにて渡り様可相尋之 白銀貳匁 丸龜まで船賃 但海上五拾里

右は大坂より両所へ渡海の次第かくのごとくなり但他國よりハ其所／＼にて渡海の次第可相尋

一阿州靈山寺より札はじめハ大師御巡行の次才なり但十七番の井土寺方札はじめすれば勝手よし委く徳嶋にて可□尋

註③虫食いで判読不能、赤木本は「被」

讃岐丸龜城下へわたる時は宇足津道場寺方札はしめよし

一阿州とくしまより靈山寺まで二里半○徳島佐古町九丁目方右へ行やそう川○屋さう村此間にあくい川有○高崎むら此間にすみぜ川有○さだかた村○しやうずゐむら此間に吉野川といふ大河舟わたし○川さき村

④一沓番靈山寺南向き平地坂

註④赤木本にはこの位置に「阿州」の字がある。墨書と判断される。

⑤郡板東村

註⑤赤木本にはこの位置に「阿州○」、更にこの○の横には「板」と書き込まれている(墨書)。おそらくこの「阿州板」と、もともとあつた「野郡板東村」とつなげて「阿州板野郡板東村」と読ませようとしたようだ。

坐像長二尺

本尊御影

本尊釈迦

大師御作

詠哥

靈山のしやかのミまへにめぐりきて萬のつみもきえうせにけり

これより極楽寺まで十町○ひの木村

一二と極楽寺をうし路にし東向板東郡ひの木村

坐像長四尺五寸

本尊御影

本尊彌陀

行基作

詠哥

ごくらくのミたの浄土へゆき度ハ南無阿ミ陀仏口僻にせよ

是より金泉寺まで廿五町○河ばた村○大てらむら

註⑥「二の字点」とも、「ゆすり字」ともよばれているもので、「準仮名・漢字」の一部とされている。用例としては、各と(おのおの)、益と(ますます)などがある(柴野耕司『JIS漢字字典』。このテキストでは、「番」の字のくりかえしに用いられている。

一三と金泉寺これ又やまをうし路にし南向き板野郡大寺村^⑦

坐像長三尺

本尊御影

本尊釋迦

大師御作

詠哥

極楽のたからの池をおもへたゝこかねの泉すみたゝえたる

黒谷まで一里おかの宮大師堂あり○ふき田村○いぬふし村○なとう村標石有是方十八丁谷へ入なり

一四と大日寺又黒谷寺ともいふ後左右山南向板野郡黒谷村

坐長壹尺五寸

本尊御影

本尊大日

作者不知

詠哥

なかむれ八月白妙の夜半なれやたゝくろたにゝすミ染の袖

これより地藏寺まで十八町

一五と地藏寺うしろ右やま南向まへにはす池中に辨財天のやしろ有板野郡やたけ村

坐長壹尺七寸

本尊御影

本尊地藏

作者不知

詠哥

六道の能化の地藏大ぼさつ導きたまへ此よ後の世

此寺妙薬あり参詣の輩うけられるべし世俗まんびやうゑんとなつく

あんらくじまで一里○かんやけ村○七ぢやう村○ひのき村

一六と安樂寺又瑞運^{ずいん}じともいふ板野郡ひきの村

坐長二尺五寸

本尊御影

本尊薬師

作者不知

詠哥

かりの世に知行争ふむやくなりあんらく國のしゆゑをのぞめよ

十らくじまで拾丁○たかを村

註⑦この位置に赤城本には「河はた枝村東大寺村といふ」(薄い墨書)とある。

一七と十樂寺^{じゅうらくじ}うしろハ山堂は南むき板野郡たかを村

坐長二尺

本尊御影

本尊弥陀

作者不知

詠哥

人間の八苦をはやくはなれないたらんかたハ九品十らく
くまだにまで沓里野原なり○はらだ村○となり村

一八番熊谷寺うしろ左右は山堂みなむき阿波郡となり村

立長六尺

本尊御影

本尊千手

作者不知

詠哥

薪とり水くま谷の寺にきて難行するも後ちのよのため

はうりんじまで十八町

一九と法輪寺平地南向阿波郡

坐壹尺五寸

本尊御影

本尊釈迦

作者不知

太乗のひはうもとかもひるがへし轉法輪のゑんとこそきけ

きりはたまで井五町○あきつきむら○きりはた村

一十と切幡寺堂南むき阿波郡切はた村靈山方是までを十里十ヶ所といふ

大師御作

本尊御影

本尊千手

秘佛

詠哥

よくしんをたゝ一すちに切幡寺のちのよまでの障りとそなる

是より藤井寺まで一里半○大野しま村○あハ嶋村此間よし野川舟渡し○を多村

註⑧赤木本には「を多村」の上に墨書で「西」が挿入されている。

一十宅と藤井寺うしろ左右山ひかしむき麻植郡

坐長三尺

本尊御影^⑨

本尊薬師

大師御作

註⑨赤木本とは図柄が異なる。

色もかも无比中道の藤井寺しんによの波のたゝぬ日もなし

これよりしやうさんじまで三里山坂にして宿なし沓里半ゆきて柳の水有大師
いませし日旅人のつかれをかなじませ給ひ菩薩道具の楊枝を路のかたはらに立
たまへハ大悲の水わき出いまにたえせぬ加持力やうじもいとうるわしき糸柳と
なりてありそれよりして邊路のともがら涸魚のくるしミを一杓の下にのがる又
標石あり○さうち村谷川有こりとり河といふ垢離して焼山寺へ登十八町坂中に
薬師堂有

一十二番焼山寺南むき名西郡

後のよをおもへハ恭敬しやうさんじしてや三途のなんじよ有なは

坐四尺五寸

本尊御影

本尊虚空藏

大師御作

是より一の宮まで五里さうち村へもどりゆきてよし寺より南八丁わきに右衛門
三郎の塚しるしの杉并地藏堂有くわしく与州石手寺の縁起にのす一の宮への道こ
れよりも有但少々坂あり○さうち村○あかハ村○ひろ野村○入田村二本木の茶
屋

註⑩赤木本には「ひの野村」とあって、「の」の横に墨書で「ロ」とあり。

焼山寺よりこれまで山路谷合川あまたあり

一十三と一宮寺平地東むき名東郡

詠哥

あはの国一の宮とハゆふたすきかけてたのめやこのよ後世

秘佛

本尊御影

本尊十一面

作者不知

これより常楽寺まで十五町此間川有○ゑんめい村

一十四と常楽寺平地南向名東郡

坐長八寸

本尊御影

本尊弥勒

作者不知

常楽のきしにはいつかいたらしぐぜいのふねにのりおくれすハ

これより國分寺へ八町

一十五と國分寺平地南むき

詠歌

うすくこくわけ／＼色をそめぬればるてんしやうじの秋のもみぢば

坐壺尺五寸

本尊御影

本尊薬師

作者不知

これよりくはんおんじ迄十八町

註⑪十五番と十六番だけに「ミやうと（ど）う郡」がふりがな風につけられている。

赤城本も同様である。

一十六と観音寺平地南むき

立六尺

本尊御影

本尊千手

御作

わすれすも道引給へ観音じ西方世界ミタの浄土へ

これより井戸寺へ十八町○かうの村明神のやしる有

註⑫赤木本には、「いど寺まで十八丁○かうの村▲但いど寺方打はじむる時ハくわ

ん音寺にもつおく藤井寺まで家つゝき此間お多つか弥三右衛門邊路をいたはりや

とかす」とある。

一十七と井土寺明照寺ともいふ 平地ミなミ向名東郡

おもかけのうつして見れハいどの水むすべハむねのあかやをちなん

坐五尺

本尊御影

本尊薬師

御作

是よりおんざんじへ五里○あくい川徳しままでハ家つゝき」^⑬

註⑬文字かすれて判読不能、赤木本には「○とく嶋」とある。

○せミがはな○二けんや村茶屋有此間につめた川橋有○ほつけ川はしあり是

註⑭赤木本にはこの位置に墨書で「十七はん」とある。

より壺丁ほと行標石有○にしつか村○枝村○しば村○たの村しるし石有

註⑮赤木本では元は「里」とあって「丁」に訂正されている。

一十八番恩山寺南むき壺町餘山上かつら郡

坐壺尺五寸

本尊御影

本尊薬師

作者不知

子をうめる其父母の恩山寺とふらひかたき事ハあらしな

此寺のまへつるまき坂の下△とろやぶといふ竹有大師降誕のむつきをおさむと

いひ傳えたり

立江寺へ壺里○天王村宮□^⑯

註⑯虫喰いで判読不能、赤木本は「有」とあり。

茶屋ありたのなか山

一十九と立江寺平地ひかしむき

註⑰「一十九」に十五番十六番と同様に読みな風な「なか郡」が付されている。

坐六尺

本尊御影

本尊地藏

御作

いつかさて西のすまひの我たちへぐぜいのふねにのりていたらん

是より蘆林寺まで三里○たてえ村石橋八ツ此はしのうへに白鷺居ときハ往来

の人渡る事あしくをしてわたりぬ□^⑱

註⑱虫喰いで判読不能、赤木本には「れ」とあり。

ハあやまち有標石あり○くしづち村しるし石有左へ三十町わきいはわきといふ

村取星寺此□□^⑲

註⑨虫喰いで判読不能、赤木本は「寺に」とある。

大師鈎召の星有玲瓏として青黒色厨子びいどろ蓮花座に安ず其外靈寶多しすこし
本道方まわりなり同村正安寺御作の觀音有大道より五丁ほと左標石有○ぬえ村○
なかつの村△十四五丁北かつら川をわたり星谷岩屋寺に廣十疊敷三角のいわほ□^⑩

註⑩虫喰いで判読不能、赤木本は「有」とある。

此中に明白なる鏡石あり

三丈許の瀧ありかたはらに弃ざい天の社有取星寺のほし天降給ふ石とて十丈餘
の大□^⑪

註⑪虫喰いで判読不能、赤木本は「石」とある。

あり靈場目をおとろかすかならず立よらるへき所也○ほし谷より羈林寺奥院まで
三里此間半里川ばたを行○よこせ村ほし谷へよらす羈林寺へ直に行ときハ○もり
村是より羈林寺へ十八町坂但奥院へかける時には森村より二里半此間かつ□^⑫

註⑫虫喰いで判読不能、赤木本では「ら」とある。

川有○もり村よりはまで十五丁餘此所五郎兵衛ところに荷物おき奥院へ懸ル○
与川内村○板本村▲此村大師回錫の折ふりかりのやどりのやどなく霜ふかき萩
ののらに御枕をかたむけいのらせ給しより今のよまで此里人露霜を見る事もな
し御ふしどの跡とて今にあり又長福寺古佛あまたあり○きハだ村坂本にことな
り霜ふかけハ際立といふよしおかし○大くほ村少行□くハんしやうかたきお
がミしよなり

註⑬虫喰いで判読不能、赤木本は「て」とある。

▲くハんじやうか瀧又ハ不動のたき共いふ日に三たび明王五色の雲□^⑭

註⑭虫喰いで判読不能、赤木本は「と」とある。

ともに降臨し給ふ辰巳の刻にいよ／＼たしかにおかまれさせ給ふおかミしよよ
り八町あかり奥院へいたる▲月頂山慈眼寺羈林寺奥院本尊不動□(梵字)上人
の作寺方三丁餘西に堂あり本尊十一面不動いづれも大師御作又同所にふじきの
峯あり半腹に一丈斗の率都婆有大師なさ□□^⑮

註⑮虫喰いで判読不能、赤木本は「しめ」とある。

給ふよし少のほり岩穴あり口^{くち}に一心といふ白字御筆のよし俗胎内くゝりといふ

入口ほそきゆへいつも身にうすきものをきかない者たいまつし二十間ほと行じ
ねんせきのはたけまんてんがい金剛杵諸佛龍等あきらかにおかまれ給ふ又十間
餘ゆき口六尺高さ壹丈餘其おく二十疊じきほと四方岩にまんだら大師御ほり即護
摩并求聞持法なさせられし口^{くち}おくすべて三十間餘靈峯ことばに演かたし歌二
天飛やつるのおくやまおくさへ□たのむふかさやのりにかよは□^⑯

註⑯虫喰いで判読不能、赤木本は「て」。

註⑰虫喰いで判読不能、赤木本は「ん」。

升とくへくりん

一羈林寺たつミ勝浦郡

哥

しけりつる羈の林をしるべにて大師そいます地藏帝釋

立長三尺

本尊御影

本尊地藏

大師御作

これより大龍寺まで一里半是ハちかミちなり大師御行脚のすぢ□加茂村其ほ
と二里旧跡も有○大井村なか川舟わたし○わかすぎ村家四五軒有

註⑱虫喰いで判読不能、赤木本は「ハ」とある。

一二十一と大龍寺^{たいうり}たつミむき那賀郡

本尊御影

本尊虚空藏

秘佛

大龍のつねに住ぞやけに岩屋しゝん文珠の守護のためなり

平等寺まで二里三拾丁ほと深山本道ハ山口村かゝる三里今の道はすぐなり○あ
せび村おゝね坂○あらたの村

一二十二はん平等寺^{びやうどうじ}うしろやまミなミむきなかの郡

坐像二尺

本尊御影

薬師如来

御作

平等にへだてのなきときく□□^{②④}あらたのもしき仏とそ見る

註②虫喰いで判読不能、赤木本は「時ハ」とある。

これより薬王寺迄七里○寺のまへ川わたり丹丁程ハ村つゝき○月夜村此名子細ありたつねらるべし○かねうち坂ふもとに茶屋有さかせ川此河の蜷貝とがりなし大師加持し給ふなり○小野村此間まつ板標石あり○だい村とまごえ坂○きゝ浦清左衛門やどをかすおほ板○ひわさたい村をた坂くたり川有○きたかわち村○ひわさ浦川有
一井三と薬王寺うしろやま南むきかいふ郡ひわさむら

本尊御影 本尊薬師

御作秘伝

ミな人のやミぬるとしの薬王じるりのくすりをあたえましませ

右貳拾三ヶ阿州分是より土佐ひがし寺迄井一里内十里阿波分

○かた村よこかう坂○山川内村こゝにうちこし寺真言道場邊路いたはりとして國主方御建立すこしゆきがんばが坂山越○たち□□○こまつ○ほとり○かうち○むぎ浦 ひわさよりこれまで山谷川多しあふ坂といふ坂ありあさ川まで二里此間八坂々中八はまはま中ありこのあふ坂にていにし□^①

註⑩本紙劣化で判読不能、赤木本は「花」。

註⑪本紙劣化で判読不能、赤木本は「へ」。

(馬子と鯖の説話画あり)

行基ぼさちさばといふううほつけし馬追男とゆきつれいかなる方便にや鯖一つこわせ給しに彼男いかりのり奉りけれハ御哥

あふ坂や八坂々中さばひとつ行基にくれでこまぞはらやむ

とつらねたまひにけれハたちまちその馬たほれふしぬ男おどろきかくたゝ人ならぬ御方しらぬはしづのわざとひれふしてわびたてまつりけれハ又

あふ坂や八坂々中鯖ひとつきやうぎにくれて駒ぞはら止^{やむ}

馬をとりあがり本のことくなりぬ菩薩同事の濟度よしある事にや右八坂々中

八はま濱中の次第○逢坂○うちすま○松坂○ふるえ○しだ坂○ふくら村○ふくら坂○さばせ村○はぎの坂○さか中大すなといふはま○かちや坂○あわの浦坂すぎ天神宮有いせだ川。しほみちくれバ。河上へまわりてよし○いせだ村○あさ川浦大道方左に町有

○いな村観音堂あり此村市兵衛やどをほどこす○からうと坂これまで八坂々中八濱之中○めんきよ村大師堂有村はづれ方左に海浦おくうら。とも浦といふ町みなとにぎわしきところ也諸邊路此まちへ入大道へ出れハマハリ道ゆへに奥浦橋本や右衛門作○ともうら嶋屋久左右衛門兩人として皆共成仏道のためすぐ道をつけ奥浦方那佐村へいづるめんきよ村方此間に河有おく浦へ行に□^②

註③虫喰いで判読不能、赤木本は「も」。

(母川の水汲み女画2頁あり)

このかわをわたる○たかそね村大師堂有次に母川といふ河有此かわを母川といふ事大師御じゅん札の折ふし早にて魑魅^{リミ}魃^ミ焦れ河伯民つきけるに一人の女のはるく山間より水をひさげて来りしに大師一滴を乞せたまひにけれバ女の申けるハ亢陽^{コウヤウ}月久しくて一人二人のいときなき渴をみるに忍びずして命をがんくつになげうち求得し幸に今日わがはきざることぶきつき給ふ日なれ□^③

註④虫喰いで判読不能、赤木本は「バ」。

三寶に奉るとおしむいろなかりけれバかの女まことの慈悲水に大師加被の月うかぶ河水となりていかなるひでりにもつくることなし○なさ坂○なさ村○しゝくみ浦町有入口右ぎをんのやしろ又「^④」

註⑤紙面いたみで判読不能、赤木本は「圓頓密寺」。

邊路のため守護よりたてらる次に川わたりて阿波さかひ目ばん所古目といふ所に有これにて往來の切手あらたむ行過さか有阿土兩國の境の峠あり○かんの浦これより土佐領入口に番所有土佐一こくの御かきかへ出るまち中にやしろ有かた原町みなとよし○白はま町明神の社ゆきて川標石かんのうら坂いくミ坂ともいふ○生見村○相間此おきの岩に法然上人の筆みだのミやうごうありて汐干見ゆるといひつたふ此間に小坂有○のねうら入口宮立有并大師堂五郎右衛門やどをかす其外志有人多し調物してよし町末に川あり○ふしごえ番所こゝにてかん

の浦切手へ裏書いづるふしごえ坂これより一里よハとびいしとてなん所海邊也
○入木村八まんの宮井川○さきのはまうらのね方これ迄四里○おさき村かぶか
坂村もあり○しみな村○かミミつ村下三津村是より東寺まで井町よの中に見所
おほしまづ大あなおくへ入事十七八間高老丈或ハ三四丈廣ハ二三間或は五けん
十間大守いしをうがち五社建立あり愛満權現と號すこの岩屋に毒龍ありて人畜
をそんがいしけるに大師辟除し其あとに權現を安置し給ふ東に太神宮の御社有
過て靈水これを亡者にたむける過て求聞持道場又庵有うしろに岩窟口壺間餘奥
へ六七間本尊によりりん石仏坐二尺龍宮方上り給ふよし石にてづしだんわきだ
ち二尺六寸の二王両のとびらに天人のうけぼりことくく石なり權化にあらず
ハたれか此妙用をなさんやその外竜燈時にあがり靈瑞無邊の幽溪なり東寺へハ
女人禁制のゆへに此所にふだおさめ海邊をすぐに津呂浦へ出る男ハ聞持堂より
七丁東寺へのぼる

註^⑤「ゆへに」の真上、欄外に相当する部分に赤木本には「土州」の書込（墨書）がある。
一井四と東寺又取御崎寺南むき安喜郡大師御なかめ

法性のむろといへどわれすめばうみの浪風よせぬ日もなし

秘仏

本尊御影 本尊虚空藏

御作

明星の出ぬるかたのひかしでくらきまよひハなとかあらまし

是より津寺まで壺里○十丁程下り坂○つる浦右のいはや方女人堂へいつるよ
きみなと石のきりとほし目をおどろかす○むろ津浦こゝにも石の切通右兩所の
みなと大きなるけいゑい筆にもつくされず

一井五と津寺津照寺ともいふふもとより半丁いしだんミなミむきあき郡室津浦

詠哥

のりのふね入か出るか此つてらまよふわか身をのせて給へや

秘仏

本尊御影 本尊地藏

御作

是より西寺迄壺里少行川有●うきつ浦過て標石有女人ハこれよりひたりへ行。
行道さきといふ所に大師御作の不動有女人ハこゝにて札おさむ西寺へハ女人制
し給ふゆへなり此さきに土石と云名物の硯石有とる事ハならずによ人ハこれよ
りくろミ村へいづ男ハしるし石より右へゆく小川有○もと村是方西寺まで四丁坂
一二十六と西寺金剛頂寺ともいふ

あき郡 詠哥

往生にのそミをかくるごく楽は月のかたふくにし寺の空

秘佛

本尊御影 本尊藥師

大師御作

是よりかうのミねじ迄七里○ぐるミ村○きらかわ村此間川あり○はね浦西寺
より三里此間川有中やま坂しんざん也○かりやうご浦此間はね石といふ海邊也
○なわり浦町ありこの間大河舟わたし○たの浦よき町なり此間八幡宮大師堂寺
も有過安田川○安田浦町有町はづれにしるし石有○たうのはま。かうの峯まで
坂ふもとにやうしん庵荷物をこゝにおき札しまひよし

一二十七と神峯寺 山上堂南むきあき郡たうのはま村

坐壺尺二寸

本尊御影 本尊十一面

作者不知

三仏のちかひのこゝろかうのミねやいばのぢごくたとひ有とも

この谷にくわづ貝とてつちの貝に成たる有是は大師此浦人の貝もち來しに逢た
まひ乞せ給ひけれハ人のくわぬ貝なるよし御いらいしけれハかのものゝけんど
んなる事をあはれミ又のちのよのために加持し給ふによりそのゝちハ煮てもあ
ぶり物にしてもたぶべき物にあらずなりにけれバ谷へすてゝける今のよまで石
貝となりて有彼浦人もはづかしく又ありがたくとんぜいしけり

これより大日寺まで九里○おふ山かうの村次不動堂○いおき村この間いおき川
あき川二瀬あり。○あき浦町過。しんぜう濱壺りすなふかし。やなかれのふも
とにちや屋有○やながれ山下りて小川○わじき村手井山ふもとに茶屋あり○手

井村山中に村有○手井浦ミなど町有此間小川。やす濱○きしもと村○あかおか村町過て橋有○のいち村しるし石有○大たに村

一井八番大日寺山上堂ハ南むきかゞミ郡大谷村

坐四尺五寸

本尊御影 本尊大日

行基作

つゆしもとつミをてらせる大日寺などかあゆミをはこばざらまし

是より國分寺へ壺里半○ぼだひじ村○ぶやうじ村此間に物部川大水の時ハ大日寺方の市町へもどり舟わたし有つね□^⑤

註^⑤紙面荒れのため判読不能、赤木本は「ハ」。

かちわたり○とさかしま村○いわ松村。松本村○上野田村○はたえた村此間小川有○國分村

一井九と國分寺平地堂ハ南むきながをか郡國分村

立長三尺

本尊御影 本尊千手

行基作

國をわけたからをつミてたつ寺のすへの世までのりやくのこせり

これより一宮まで一里半此間に小川有○やわた村此間小坂山上に八まん宮○でうりんじ村地藏堂有本尊石仏御作此堂としひさしくはそんに及しに當村七郎兵衛再興し大師御影こんりうし并やどをほとこす○たきもと村坂有峠より土佐かうちの城見ゆる

一三十と一之宮平地堂ハ南むき長岡郡一之宮村

人おほく立あつまれる一の宮むかしもいまもさかえぬる哉

秘佛

本尊御影 本尊弥陀

作者不知

これより五台山迄二里○あぞうの村國の守の氏神有。此山中におたま屋あり

麓にけんりう院。過てひじま橋次に丸山有○かうち城下町入口に橋あり山田橋といふ次番所有往來手形改若町にとまる時は番所より庄屋へさしづにてやどをかる町なかにさるんば橋過て農人まち町はづれをミつかしらといふこれよりつゝミひだりハ田也右は入うミ行てたるミの渡次に及古寺禪宗風景ぼんなうのくもをはらふかたはら町これら五台へ八町さか三十壺と五台山たつミ長岡郡

秘佛

本尊御影 本尊文珠

行基作

なむもんじゆ三世の仏の母ときくわれも子なればちこそほしけれ

是よりぜんじぶじへ一里半ごだいさんち八丁下江川有舟わたしつゝミを行○

下田村此間つか有○十市村是ちすこし坂

一世二と禪師^{ぜんじぶじ}峯寺南むきながをか郡十市村

秘仏

本尊御影 本尊十一面

御作

しづかなるわがみなもとのせんしふしうかふこゝろハのりのはやふねをしなへて浄土へのせんしふしくもゐをてらす月をこそ見れ

是よりかうふくじまで壺里半壺りハうミ邊也○たねざきござ町といふしるし石有わたしへいつ此口浦戸といふ屋形有城下へ三里入うミ舟屋多くあり是ち渡し有五丁ほと海中

右にさしまといふ小嶋あり○みませ浦片原町○なか濱村

一卅三と高福寺雪溪寺ともいふ平地南向長岡郡長濱村

坐長四尺

本尊御影 本尊藥師

運慶作

たびの道うえしもいまハかうふくじのちのたのしみ有明の月

これら種間寺へ二里出口に橋有此間小坂有○東もろき村○にしもろき村山はな

にしるし石次に川わたり瀬所の人にたつねらるべし大水のときハ河上に舟わたし有

一卅四と種間寺たつミむきあがわ郡秋山村

(本尊の画像、及び記述なし)

吾中にまける五こくのたねま寺ふかき如來の大ひなりけり

是よりきよたきへ二里〇もりやま村〇ひろおか村此間二淀川といふ大河有舟わたしわたしば川上に有時ハ荷物をかけきよたきへ行わたしば大道筋川しもに有時ハ荷物を高おか町にをき札所へゆきてよし〇高岡

一卅五番清滝寺南むき高岡郡高岡

すむ水を汲ハ心のきよたきしなミのはなちる岩の羽衣

秘佛

本尊御影 本尊薬師

行基作

是より清龍寺迄二里半井せき村此間小河有〇つかち村〇宇佐村是方かち道を行時は此村西に荷物を置青龍寺へ行但舟にて行ハいのしりへ荷物持行〇ふくしま浦此間に入海渡し有舟賃四錢〇いのしり村此所に荷物を置札所へ行此間りう坂〇りう村

一卅六と青竜寺 山上堂南むき高岡郡龍村

秘佛

本尊御影 本尊不動

大師御作

わつかなる泉水にすめる青龍ハ仏法守護のちかいとそきく

是より仁井田迄十三里但いのしりへもとりよこなミといふ所迄三里舟にてもよし此間景よし左まき馬おほし又八坂々中八濱々中有かちミちハうさ村のにしへいづる

(舟と馬の画二頁あり)

〇うさ坂又ハはいかたとも云〇はいかた村〇かうそ村〇しあひ村〇しあい坂〇出見村此所をいづミといふ事花山院離宮の御時天氣たゝならずして都のそら御

なつかしくいくたびか門ほかへ出御なりしかハいづ見と名つく又土佐の大平かもとへ御製

とさのうミに身ハうき草のゆられきてよるべなき身をあわれとも見よ

御返し大平

あはれをバあふかん及びなし身ハ入うミの藻かくれにゐて

つゐには此所にて崩し給ふとなん千光密寺に廟碑有〇出見坂又ハたちめ坂とも〇たちめ村〇あかくま坂今ハとをらずうミ邊を行〇させぶ坂とをらず〇するぎ村〇たていし坂とをらず〇だうめき坂〇よこなミ村是まで八坂々中八濱々中大師の御ながめとて道筋にぬきなし機をたておきてをりてハうミ／＼をりてハうミ／＼いのしりより横なミ船ニてもよしうさよりのかち道ハなんじよゆへ舟御ゆるしのよし申傳ふ此浦を浦のうちとふ鳴無大明神とて國主造營の宮朱門彩瓦景もよし一とせ一条院土佐のはたへわたらせ給ふときなにしあふ人のしらぬもことわりやうらのうちなるをとなしの宮なにきし土佐の入江の舟ちがひのりて見んとハおもハさりしに となん口號給ふよし〇おく浦村此間ほとけ坂〇かうた村〇土さき村とりこえ坂〇今ざいけ村大師堂又さき川有〇かとや坂〇あわ村〇やけさか峠右の方冷水有〇くれ村大道よりひたり町有たちはな屋平兵衛小左衛門やとをほとこすそのほかころざし有人有〇そえみゝ坂〇とこなへ村〇かげの村武兵やどかす〇かい坂村〇六たんぢ村〇かミあり村〇かわゐ村しるし石あり此間に少山越うしろ川引舟ありこれハねゝさき村善六邊路のためつくりおく過て大河洪水の時ハ手まへの山に札おさめところあり水なき時は五社へ詣

一廿七番五社ありひかしむきはた郡ミやうち村此在所惣ミやう仁井田村といふ

右薬師地藏

本尊御影

本尊阿ミた

左観音不動

五社ともに秘佛御作のよし

詠哥

むつのちり五つのやしろあらハしてふかきにいたの神のたのしみ

別當岩本寺くぼ川町に居是よりあしすり迄升菰里○くぼ河村此町しもと七郎兵衛やとをこし善根なす人あり○おかさき○ふる市○きんしよの村川坂有○ミねのうへ村かた坂くだる○いちのせ村○たち花川村○こぼしの川村○かいな村○こごろの川村○ふばわら村此間ふばわら坂○くま井村此間くまこえ坂○ふじなわ村○しらいし○中つの村○佐賀浦町ごしやよりこれ迄六里一の瀬よりこれ

まで三里いよぎ谷とて山路谷川かすく有○白濱村此間になだミね坂○いだ村弥兵衛その外やどかす是より七八町有井川村ありみの庄司のせきたう有○川口村川坂あり○うきつ村是方海はたを行ふきあけ川わたりて塩干の時ハすぐにゆく。ミち塩の時ハ右へ行○入野村かきぜ川引舟有○たの浦これより七八町はまを行標石有むかふ山はなハ下田道こなたハ舟わたし少まわり道○いでくち村此間小川坂有○たかしま村大河舟わたしさね崎村天満といふ所に引舟有○ま崎村薬師堂有津くらふち村此間いつた坂くたりて小川有○市野瀬村さがうらよりはまて八里此村に真念あんといふ大師堂邊路にやとをかす是よりあしすりへ七里但さゝやまへかけるときハ此庵に荷物をおきあしすりよりもどる月さんへかける時ハ荷物もち行此月山ハあしすり

註③④赤木本では「真念庵」とすべて漢字表記。

方九里有、本尊三ヶ月なりの石いわれり有て御堂なし。あしすり方このあいだの道中しミづうらうミわたし有。ましの浦のびわばこいし。ミさきのうち。たゑまといふ所に田づくしのいそべとて。ごんごにつきせぬ。けいき岩くミ目をおどろかす所也お月よりてら山迄七里半此間ひめのる村庄屋喜兵ならびに。村中方諸遍路のためすぐ道をつける又あらせに霊げんの地蔵まします但

註③④方九里有（中略）但の部分は赤木本にはない。

初遍路ハさゝ山へかくるといひつだふ右兩所の道あなひ真念庵に尋らるへし此間小川

註③赤木本には「右兩所の道あないこの庵にてくハしくたつねらるべし」とある。

四瀬あり○市のゝ村○をがた村しるし石有川有洪水の時ハ下ノかやうら舟渡り有此かやうら太郎左衛門其外やとかすなりつねにはをがたしるし石より右へわたる○貝がけ村○くもゝ村山道○おほき村此間海邊行過山路○いぶり村大師

堂○くぼ川宮有○つろ村此間山路○大たに村一卅八と蹉跎山あしすりひら山うしろ深山南向幡多郡いさ村

立八尺

本尊御影 千手觀音

古佛

ふたらくやこゝをみさきの舟のさほとるもすつるものりのさた山

是方寺山迄十二里右真念庵へもとり行○真念庵○成山村○おほかめうち村真念庵よりは迄山路溪川○上ながたに村しるし石いにしへハ左へゆきし今ハ右へゆく但大水のときハ左へつねハゑの村川有水ましの時ハ庄屋并村翁邊路をたすけわたす○いその川村やきこめ坂○ありおか村○やまた村

註④赤木本では「左よし」とある。

一卅九と寺山院山をうしろにし南

むきはた郡中村

秘佛

本尊御影 本尊薬師

御作

南無薬師諸病悉除の願こめてまひるわか身をたすけまします

是まで十六ヶ所土州分与州くはんじざいじまで七里内三り半まつをさか峠までハ土佐分○寺山おしをか村○わだ村此間うしのせ川○すくも村町有与助やとをかす其外諸事調物よし与州入口ハ時により八木も調かたしこゝにてしたくしてよし○かいつか村○にしき村○こぶか原村○大ふか原村番所有土佐通路の切手ハこれへわたすこれ松尾坂峠土豫のさかひ標石有其まへ休息しよ方びりやうかしまおきの嶋ひろせしま漁家④多く見ゆ○これより豫州○こやま村番所切手をあらたむる○ひろミ村さゝへかけるときハ荷物をこの所におく○うハおほだう村○じやうへん村

註④赤木本では「魚家」の文字の上部で欄外の位置に「豫州」の書き込みあり（墨書）。
一四十と觀自在寺平地南向宇和平城村

立壹尺二寸

本尊御影 本尊藥師

作者不知

しんくはんやじざひの春に花さきてうきよのかれてすむやけたもの

これよりいなりへ道すぢ三有

一すぢ nada道のり十三里

一すぢ 中道大がんだう越のり十三里

一すぢ さゝ山越のり十四里半

三すぢともに岩ぶち満願寺二至ル

先灘道つゞき観自在寺此間山路たにあい○ながす○するぎ○かしわ此間二里の坂○かみはたち○しもはたち○はうわら阿ミた堂有やかす○いわまつ○いわぶち満願寺

次に中道つゞきくわんしざいし○なが月○大かんどう坂二里○さうず村○しやうかんどう坂三里○ひでまつ村○岩渕まんくはんじ

次にさゝ山越くはんじざいよりひろミ村へもどり○いたお村○まさき村この村庄屋代々とさゝぬなりありがたきいわれ有たづねらるべし○はらい川垢離してさゝやまへかくる

篠山観世音寺本尊十一面立像五尺○寺より三町西に天狗堂其上三所権現此所に札おさむ○矢はづの池中に恠異の石有池をまわりにさゝ竹有夜ことに龍馬きたりてはむよし諸病によしとて諸人もちさる馬のやむに猶よしといひつたふ○まさき川村ばんしよ有切手あらたむ大師堂あり庄屋長左衛門やかす○みうち村庄屋伊左衛門やかす。さんざい村○岩渕村満願寺山をひたりにし東むき宇和郡つしま郷

本尊藥師行基作秘佛うた

よろすよのねかひをこゝに満願寺ほとけのちかひたのもしき哉

この寺八十八ヶの中にあらずといへとも大師草創の梵宮にてそのかミハ大がらんなりしがはゑとし久しくつくるになん／＼とす今出す所の靈場記此道しるべ兩通の料物をあつめ彼寺をしゆりせん事真念願序のことし

△四國偏礼靈場記 四卷

△四國邊路道しるべ 全

○野井村くはん音堂有此村伊左衛門延宝年中七とせの間邊路に足半をほどこし志ふかき人宿かす□て地藏堂有。

註②虫喰いにて判読不能、赤木本は「過」とある。

のいのさか○いわみのもり村地藏堂○ひえ田○よりまつ村毘沙門堂これより宇和嶋城下迄なミ松よき道也○城下町の入口に願成寺又ハもといぎともいふ由緒有てら也本尊大師の御影札を打なりすこしゆき橋有番所有切手を改む此城下に三十三所のくはんおん有調物自由町の出口にも番しよあり次に橋有わたり左かたはら町を行○下村こん屋庄兵衛やどかす此間明神宮○なかあいだ村此所八幡宮有○みつま村此間としに七度なる栗有○むた村大師堂窓峠坂○とがり村一四十一と稻荷宮南むき宇和郡とがり村

立長一尺

本尊御影 本尊十一面

作者不知

此神ハ三國流布の密教をまもり給んちかひとそきく

此よ□佛木寺まで卅町○なりゑ村観音堂大師堂○則村

註③虫喰いにて判読不能、赤木本は「り」とある。

一四十二番佛木寺平地ミなミむき宇和郡則村

草も木も佛になれる佛木寺猶たのもしき鬼畜人天

坐四尺

本尊御影 本尊大日

御作

明石寺まで三里はなが坂○下川村河有○かいた村○いなん坊村○明石村此間

註④赤木本には「あけいし寺まで三里」とある。

明□□□ふ大石これを白王権現といふ此石には色々しさひあり

註⑤虫喰いにて判読不能、赤木本は「石とい」とある。

一四十三と明石寺山上たにあい南むき宇和嶋郡明石村

きくならく千手の誓ふしきには大ばんじやくもかるくあけいし

坐三尺

本尊御影 本尊千手

唐佛

是より菅生山迄廿一里○うの町調物よし大師堂有

註④⑥赤木本も同じ表現であるが、「宇和郡」が正しい。

○下ま□ば村○上まつば村○あう江村○東たゞ村番所切手改○ときか村こゝにうわ嶋と大ず領とのさかひ過て戸坂さか二里有八町ほどのぼりそれなくだる○北たゞ村此間小川二瀬有○大ず城下諸事調物よき所なり町はつれに大川有舟わたしわたりて十王堂侍やしきも有○下村町○わかみや村こゝに大師堂有甚之助やかすゆき過とよか橋ゆらい有○にみやの町調□□しはたご屋も有○

註⑦虫喰いにて判読不能、赤木本は「つ」。

註⑧虫喰いにて判読不能、赤木本は「物よ」。

くろち村い□ミがたう坂○内のこ村町左ハ大道右ハ邊路道過て川わたり千せ坂○むらさき村此間中戸坂○いよき村○大瀬村大師堂雲林山壽松庵是有此ところすまいする曾根の清左衛門先祖經營して永くミほとけの御弟子に奉り邊ろの人を憩しむる所とせり其人のよめるとて哥ににたる事有

白妙のくもの林のこなたより壽姿に夢さむるかな

註⑨虫喰いにて判読不能、赤木本は「つ」。

○川□□り村阿ミだ堂有○梅津村薬師□

註⑩虫喰いにて判読不能、赤木本は「のぼ」。

註⑪虫喰いにて判読不能、赤木本は「堂」。

○下たど村○地藏堂○なかたど村八幡宮○上たど村過て三嶋明神宮○うずき村大師堂○二明村爰にかつらき明神行てはしわたり大師堂過てひわだ坂此峠方万の町すがう山見ゆ大洲領松山領のさかいなり但此之村よりうずきの間天然の幽景目をおとろかす○久万の町荷物おきすがう山井いわ屋へまうづ此町ハ邊路をあわれむ人多し調物由由なり

一四十四□菅生山山上南むきうきあな□すがう村

註⑫虫喰いにて判読不能、赤木本は「と」。

註⑬虫喰いにて判読不能、赤木本は「郡」。

立四尺三寸

本尊御影 本尊十一面

天竺方百濟々々より當山來

今のは大慈悲のめくミ菅生山つゐには弥陀のちかいをそまつ

これより岩屋寺まで三里此間峯の堂坂峠に地藏堂有○はた野川すミよし大明神過て薬師堂有どんま堂又ゆきて左右に道有右よ□是方岩屋まで一里坂山

註⑭虫喰いにて判読不能、赤木本は「し」。

道す□□

註⑮虫喰いにて判読不能、赤木本は「がら」。

おがミしよおほし

一四十五岩屋寺ひがしむきうきあな郡竹谷村

詠哥

大聖の祈ちからのけに岩屋石の中にも極らくぞある

秘佛

本尊御影 本尊不動

御作

これよりじやうるりじへ八里但岩屋方□向には下道を行ふもと□

註⑯虫喰いにて判読不能、赤木本は「下」。

註⑰虫喰いにて判読不能、赤木本は「に家」。

里ひとつ橋又橋ひとつすぎて古岩屋先亡回向する所也是方久万町へもとるくまよりじやうるりへ五里○ゆかの村○ひかし明神村○西明神村ゆきて坂有見坂となつく此峠より眺望すれはちとせことぶく松山の城堂々としねがひハ三津の濱浩々乎たり碧浪渺洋中によつと伊与の小富士駿河の山のおとしごゝ嶋しま山山嶋かすゞの出船つ□船やれ／＼扱先たばこ一ふく

註⑱虫喰いにて判読不能、赤木本は「り」。

(見坂(三坂))よりの眺望をたのしむ図二頁あり)

くだ□て坂半過桜休場の茶屋大師堂是堂ハ此村の長右衛門こんりうしてやとを
ほどこす○多のき村地藏堂○くほの村こゝに大師堂○くたに村此間小川有○じ
やうるり村

註⑤虫喰いにて判読不能、赤木本は「り」。

一四十六と浄瑠璃寺平地ひがしむきうきあな郡じやうるり村

秘佛

本尊御影 本尊薬師

行基作

ごく□く^⑥のじやうるりせかいたくらへはうくるくはらくはむくひならまし
是より八坂寺迄五町^{やさかし}

註⑥虫喰いにて判読不能、赤木本は「ら」。

一四十七と八坂寺平地ひがしむきうきあな郡やさか村

正面ハ此寺のちんじゆ也札所は南

座長三尺

本尊御影 本尊阿弥陀

恵心作

花を見て哥よむ人ハやさか寺讚仏乗のゑんとこそきけ

これ□り西林寺^{さいりんじ}まで一里○ゑわら村大師堂有此村の南に右衛門三郎の子八人

のつか有石手寺の縁起にくハし○小村大師堂此間川三瀬有○たかみ村九郎兵衛
吉右衛門其ほかもやどかす

註⑦虫喰いにて判読不能、赤木本は「よ」。

一四十八と西林寺平地南むき浮穴郡高井村

立三尺

本尊御影 本尊十一面

御作

ミだぶつ^{じやうぶつ}の世界をたつねきゝたくハにし^{じやうどじ}の林の寺へまいれよ

これより浄土寺まで廿五町此間○土井村小川二瀬

四十九と浄土寺山をうしろ南むきくめ郡たかのこ村

秘佛

本尊御影 本尊釈迦

行基作

十悪のわか身を捨すそのまゝにぢやうとの寺へまいりこそすれ

是よりばんだじ迄十五町少

ゆき八まんの宮しんたて町過右へ

しるし石有^{ばんだじ}

一 繁多寺平地西むき温泉郡はた寺村

詠哥

(札所の番号 本尊の御影・記載無し)

萬こそはんた成ともおこたらすしゆひやうなかれとのそミいのれよ

是より石手迄井丁少行八まんの宮過て大道邊路ハ右へ行しるし石有○げば町

○石手村^{いして}

一五十一と石手寺うしろ山ひかしむき

うんせん郡石手村

坐長貳尺五寸

本尊御影 本尊薬師

行基作

西方をよそとハ見まじ安養の寺にまいりてうくる十らく

是より大山寺まで二里少行やくし堂過て河野の古城湯月となつく今竹はやし

と成外堀有次領主の氏神ふもとハ社家同所に一遍上人の寺有過て○道後湯景行

天皇より代々の天子行幸有て浴し給ふと日本紀に見えたり推古の御宇聖徳太子

も來給へり源氏物かたりにいよのゆけたとかきしも此所なり湯つぽすべて五つ

先かぎゆとて雑人ハいらず此湯の中に石佛のやくします御足の下より湯出る事

谷川のごとし二の湯女三の湯おとこ第四はやうじやう湯とて男女へだてなく諸

國湯治の人夜日をきらわず第五のハ非人并に牛馬入なり湯のわきに玉の石とて

まろき石有此石に哥あり

伊豫の湯のほとりにたてる玉の石これそ神代のはじめなりけり
ゆげたのうた

いよのゆの井けたはいくつ左八右ハこゝぬつ中八十六

又

いよのゆの井けたはいくつ救しらす覚へすとます君やしらん

くハしくは湯屋明王院に記有之

註⑥②・⑥③近藤喜博「四国邊路道指南」では「ハ神ゆの」と読む。しかし「ハ神」は「農」の字を少し極端に崩したものと判断し「の」とした。

爰町すこし有松山城下へこれよりひだりへ行少まわりなれとも諸事自由なるが故に出てよしそれより三津のはまへ一里なミき湊町にて賑し舟屋多し太山寺へハ古三津よりすぐ道も有すぎ小坂有但松山へよらぬときハ道後方○山越村是ハ道後より右への道なり此所に正月十六日桜とて毎年此日にあたり爛漫するなりゆへにかくなく寺数おほく有ゆへに寺町ともいふ○たに村此所にむろおかやまとてよこ堂本尊薬師諸邊路札打也○あんじやうし村○太山寺爰に太山寺の惣門有是方本堂まで八丁ふもとに茶屋あり
一五十二番太山寺少山上みなミむき和氣郡太山村

立六尺二分

本尊御影 本尊十一面

行基作

太山へのぼれハあせの出かけれとのちよおもへハなにのくもなし
これより圓明寺へ十八丁

五十三番圓明寺平地みなミむき和氣郡和氣濱村

來迎の弥陀の光の圓明じ てりそふ影ハよな／＼の月

立三尺五寸

本尊御影 本尊弥陀

行基作

是より延命寺迄九里○ほり江 村過てあはる坂○やなきはら村町有○ほうてう村町中に橋有行てかうの坂ふもとに大師堂○あさなミ村番所有切手をあらたむ

る過てまど坂ひろいあげ坂此間一里餘むらなし○きくま村町有此間小川有行て
たは坂たね村○さがた村小川次町有○新町○縣村爰に松山札の辻より十里と
いふ一里塚有同所標石有

五十四と延命寺少山上堂有南むき

坐二尺

本尊御影 本尊不動

行基作

くもりなき鏡のゑんと詠むれハのこさずかけをうつすもの哉

これより別宮まで壱里是ハ三しまの宮のまへ札所也三嶋までハ海上七里有故
に是よりおかむ

一五十五番三嶋宮平地ひかしむきおち

此所見しまにゆめのさめけれバべつくうとてもおなじしいやく

(本尊の御影・記載無し)

此間薬師堂是より泰山寺まで一里二丁程左は今治城下諸事調物自由○日吉村

○馬越村大師堂有○小泉村

一五十六と泰山寺ひかしむき

坐二尺四寸

本尊御影 本尊地藏

大師御作

皆人のまいりてやかてたいさんじ來世のあんだうたのミおきつゝ

是よりやわた宮まで十八町行て惣蛇川と云川有○よむら次右衝門やかす○い
かなし村

五十七と八幡宮二丁山上東むき

このよには弓箭を守るやはた也來世ハ人をすくふ彌陀佛

秘佛

本尊御影 本尊阿彌た

作者不知

是より佐禮迄升町山道小さか

五十八と佐禮山々上南むき

立六尺

本尊御影 本尊千手

作者不知

立よりてされいの堂にやすみつゝ六字をとえ經をよむへし

是より國分寺まで一里○にや村○松木村此間小川有○國分村

五十九と國分寺少山上堂南むきをち郡國分村

此村に新田よしすけ朝臣のはかしるし有今治御家中石塔建立

坐長四尺

本尊御影 本尊藥師

行基作

しゆこのためとてもあかむる國分寺いよ／＼めくむやくしなりけり

これよりよこミねじまで六里●さくらあ村こんや傳右衛門やとかす●ながさ
か村これより山道醫王山といふこの間山手にせた効驗殊勝のやくし尊ます過て
六軒茶屋といふ新村●くす村大日堂●中村此所にびしやもん堂有次道すぢ左に
よき井水過て大明神河原標石有いにしへハ一の宮かうおんじよこミねと順に札
おさめしかども一の宮を新やしき村へうつし奉るによりて今ハ大明神がハラ右
右へよこミねかうおん一の宮と打○きたじん町○たんはら町西にあたり紫尾山
八幡ふもとに大師御作生木の地藏靈異あげて計がたし○しんでん村○大戸村此
所に荷物おきてよこミねまで二里○ゆなミ村地藏堂有○ふるほう村地藏堂大戸
方山路谷合

一六十と横峯寺山上にしむき周郡

坐二尺三寸

本尊御影 本尊大日

行基作

縦横にミねや山邊に寺たてゝあまねく人をすくふ物かな

是よりかうおんじまで三里右の大戸村へもどるよこミねより二町のほりいし
つち山の前札所缺のとりゐ有これよりいしづちやまへ九里毎年六月朔日同三日

の日ならてぜんぢやうする事なしそれ故まへ神寺といふ○此川有○ミやうぐち

村○香苑寺村

一六十一と香園寺平地ひかしむき周郡かうおんじ村

坐壹尺二寸

本尊御影 本尊大日

春日作

後のよをおそるゝ人ハかうおんしとめてとまらぬしらたきの水

これより一の宮まで八町

一六十二と一之宮平地東向周郡新屋敷

立一尺二寸

本尊御影 本尊十一面

作者不知

さミたれのあとに出たる玉の井はしらつほなるや一の宮川

是方吉祥寺まで七町壹町程のわきに小まつの町

一六十三番吉祥寺平地にしみなミにゐ郡氷見村

坐二尺

本尊御影 本尊毘沙門

大師御作

ミの中のあしきひはうを打すてゝこれきちやうをのそミいのれよ

これより里まへ神寺へ一里●ならの木村石佛地藏堂あり○にしいつミ村過て

だんといふ所

一六十四番里前神寺山上堂はひがしむき新居郡藏王権現のやしろ

これすなわち石鎚山のまへ札所なり本札所ハ石つち山前神寺ふもとより十二里

有

秘佛

本尊御影 本尊彌陀

作者不知

詠哥

前ハ神うしろハ佛こくらくのよろつのつみをくだくしつち

此札所ハ高山六月朔日おなしく三日ならて。参詣する事なし。このゆへに。

里まへ神に札を。おさむなり里まへ神より三角寺へ十里○すのうち村○あんど
うむら此間にかも川といふ川あり○大まちこれ五町餘ひだりに西条とてしろ
した有○ふくたけ村○上しまやまむら○はんぎう村○なか村○すみの村やくし
堂あり○こくりやう村此間はらあり池田原といふ○なが野村○せき村此間川有
○うへの村大師堂有○ど井村ぢぞう堂有○中村○小林村与三右衛門宿かす観音
堂有○津ね村○のだ村○おさだ村○さむ川村○ぐぢやう村与右衛門やとかす大
師堂有○なかの庄村○なかそね村○かしわ村○たきのミや村牛頭天皇の社并に
薬師堂○よこお村三角迄坂

註④赤木本には「中村○小はやし村」とある。「○中村——宿かす」は改刻されている。
一六十五番三角寺東むきうまる郡

立六尺式分

本尊御影 本尊十一面

御作

おそろしや三ツの角にも入ならは心をまろくミだをねんぜよ

是より雲邊寺^{うんへんじ}まで五里

右二十ヶ所豫州分三角寺より奥院まで五十八丁坂道おくの院八丁前に大久保家
二三軒

註⑤赤木本も同様の記述。郡名は「うま郡」が正しい。

有荷物きてよし但おくの院一しゆくの時ハ荷物持行奥院本尊大師御影御自
作詠哥

極楽はよにもあらし此寺のミのりの聲をきくそたつとき

此所旧跡しけきをおそれやくす也

おくの院より荷物置たる所へもどり雲邊寺へ行。・過^⑥て一昼村それより平山
村へ出る奥院よりこれ迄山路○三角寺^{さんかくじ}うんへんじへすぐゆく時ハ左へ行○金
川村○内野々村坂有○平山村茶屋有○はんた村くはん音堂

註⑥「・」は「すぎて」の文字の横に挿入されている三文字「大くぼ」の挿入位置を

しめすか。赤木本も同様のようだ。

○りやうけ村観音堂○だいお村地藏堂○ねきのお村太郎左衛門宿かす坂有峠
に与州阿波のさかひ有^⑦大さかひとなく是より雲邊寺まで二里阿州の分○さ
の村爰に地藏堂并阿州番所有往來切手あらたむ同所に清色寺とて

註⑦「太郎左衛門宿かす」は挿入。赤木本にはなし。赤木本には「ねきのお村ゆきて坂
有峠に」とある。

真言地守護御方より邊路いたわり雲邊へ五十丁程坂有

註⑧赤木本では、「真言地」の上部欄外の位置に「讃州」との書き込みがある（墨書
と判断した）。

一六十六と雲邊寺たつミむき三好郡ハくち村

はるくくともものほとりの寺に來て月日をいまはふもとにそ見る

坐三尺三寸

本尊御影 本尊十一面

大師御作

右此寺ハ阿州与州讃州三國の境なり阿州領主より造營し給ふ

註⑨本尊は千手觀世音寺菩薩（經尋作）（四国八十八ヶ所霊場会編・発行『先達教典』
平成十八年一月）で、この説明は誤りか。

しかれとも讃州札所にに数に入是より小松尾迄二里半一里半ハくたり坂此間
池ふたつ有ふたつめにしるし石有○べつそう村此間のら○辻村文右衛門九十一
郎右衛門やとかす

一六十七と小松尾山東むき豊田郡辻村

坐長二尺五寸

本尊御影 本尊薬師

大師御作

植置し小松尾寺をなかむれハ法のおしへの風そふきぬる

是より琴引迄二里○はら村○いけのしり村○しゆつさく村○くはんおん寺村
調物してよし過て川ふもとに十王堂有これより琴引までさか

一六十八番琴引八幡宮南むき

秘佛

本尊御影 本尊彌陀

作者不知

笛の音も委ふく風も琴引もうたふもまふものりのこゑく

これより瞻望すれハ蒼海天と二色にして國々嶋々直下して右ハ有明のはま左は川みなと出入舟おほく観音まち数千の軒をならふ是より観音寺まで二町

一六十九と観音寺山地堂南むき

坐二尺五寸

本尊御影 本尊正観音

御作

観音の大悲のちからつよけれハおもきつミをも引あげてたべ

是より本山寺まで一里観音町へ出る川有〇かうか村〇なかれをか村〇よしお
か村

一七十と本山寺平地坤むき此所は
もとやまじ

家居よく景氣もよししかれとも邊路やど不自由なり

坐二尺五寸

本尊御影 本尊馬頭

御作

本山にたれかうへける花なれや春こそ手をれたむけにそ成

これより弥谷じまで三里〇上寺村いせはよしとて太神宮ます〇かさをか村〇
かつま村〇しんミやう村少過しるし石有観音寺〇これまで左右なミまつ〇大見

村大師堂有

一七十一と彌谷寺南むきミの郡
いまたにじ

立長三尺五寸

本尊御影 本尊千手

大師御作

あく人とゆきつれなんもいやたに寺只かりそめもよきともそよき

是よりまんだら寺まで一里白方へかけぬれば山越に行道有まんだら寺へハ二王

門より左りへゆく〇ひどの村〇ミゐのうへ村〇よしはら村

一七十二と万茶羅寺ひら地堂ハひかしむき
まんだらし

坐二尺五寸

本尊御影 本尊大日

大師御作

わつかにもまんだらおかむ人はたゝ二たびミたびかへらさらまし

寺より三町西に水くきのおかとして西行法師のすめる庵の跡有其所にてよめり
けりとて

山里にうきよいとハん友もかなくやしく過しむかしかたらん

又堂のまへに笠かけのさくらとて有おなし人のよめるとて

笠ハ有その身ハいかに成ぬらむあわれはかなきあめか下哉

是より出釋迦寺迄三町
しゅつじやか

一七十二と出釋迦寺少山上堂ひかしむき

註⑩番号の誤り。赤木本も同様。「七十三」とが正しいか。

秘佛

本尊御影 本尊釈迦

御作

まよひぬる六道しゆじやうすくハんとたつとき山にいつるしやか寺

ほかに虚空藏尊います此寺札打所十八町山上に有しかれとも由緒有て堂社な

しゆへに近年ふもとに堂并に寺をたつ爰にて札をおさむ是より甲山寺迄卅町〇
廣田村

一七十四と甲山寺山をうしろにし堂ひかしむき

坐二尺五寸

本尊御影 本尊薬師

御作

十二神みかたにもてるいくさにハをのれとこゝろ甲山かな

是より善通寺迄十丁
ぜんつう

一七十五番善通寺堂壺町東に南むき

詠哥

われすまバよもきゝはてし普通寺ふかきちかひの法のともしび

坐四尺五寸

本尊御影

本尊薬師

大師御作

是より金倉寺迄卅丁こんひらへかくるときハ爰に荷物おき行壹里半しるし石有○上よしだ村○下よし田村

註①○と「上よしだ」の間に「ぜんつうし方」とあり

一七十六と金藏寺平地堂ハひかしむき

坐一尺八寸

本尊御影

本尊薬師

智證作

まことにも神佛僧をひらくれハ真言加持のふしぎなりけり

是より道隆寺まで一里○かつら原村○かも村

一七十七と道隆寺平地堂ハ東むき

詠哥

ねかひをバ佛道隆に入はてゝぼだひの月をみまくほしさよ

立二尺五寸

本尊御影

本尊薬師

大師御作

是より道場寺迄一里半○なかづ村石佛の地藏堂有次川有○塩屋村ひたりの方に天神のミヤ○丸龜城下町中に橋有左ハみなと調物自由どき川方西丸龜領東は

高峯領すぎて少海邊

一七十八と道場寺少山上堂ひかしむき鵜足郡宇足津村

坐一尺八寸

本尊御影

本尊阿弥陀

御作

おとりはね念佛申道場寺ひやうしをそろえかねを打也

これよりしゆとく天皇迄一里半○うたつ町○さかめで村塩釜ありなミ奈野沢の水霊水五丁山上に醫王善逝石佛大師の御作この尊を木壇にあんちし奉れ野沢の水涌出すよて石座におき奉るよし

一七十九と崇徳天皇山地堂南向阿野郡北西庄村

じやうらくのうきよの中を尋ぬへし天皇さへもさすらへぞ有

正面ハちんしゆひたり札所

立二尺三寸

本尊御影

本尊十一面

作者不知

是より國分寺迄一里半行すぎあや川有○かも村過て相坂有

註②この一行は赤木本にはなし。

一八十番國分寺平地堂南むきあの郡國分村

立壹丈六尺

本尊御影

本尊千手

大師御作

くにをわけ野山をしのき寺々にまいる人をたすけます

これより白峯寺迄五十町此間に坂有國分坂といふ十町ほととのぼる谷川有

一八十番白峯寺山上堂坤むきあの郡南青海村

立三尺三寸

本尊御影

本尊千手

作者不知

しもさむくつゆ白妙の寺の内ミなをとなふるのりのこゑ

此寺に兒が嶽とて百余丈のたけ有延寶年中ミな月のそら後の備州やすな郡そね

原の寶泉密寺の雲識とし十八 高祖のいときなき捨しんの御ちかいをや。

(捨身の画あり)

まねびけん此嶽よりとびおちけるにうつゝに黄衣したる僧半腹にましてとめう

け玉ふ事ふたゝひミちとをる賈人此寺の蒼髻此形容を見つけ駭き汗して告こた

えけるほどに人々あつまりふためきしにおもひもよらぬうしろの谷よりつたひ

道もなき百餘丈の底を飛出て來にけり佛神のふしぎ愚意の及ぶ事にあらす

これより根來寺まで五十町山路にして村なし此間にいちの宮へのしるし石あり
一八十二番根香寺さんじやうの堂みなミむきあのゝ郡なり

立三尺八寸

本尊御影 本尊千手

御作

よひのまのたえふる霜のきえぬれハあとこそかねのこんぎやうのこゑ

是より一宮迄二里半しるし石有○山口村○飯田村八まんの宮過てかうどう川

○小山村○成相村

一八十三と一之宮平地堂ハひかしむきかゝハ郡一宮村 詠哥

さぬき一の宮の御まへにあふきゝて神のこゝろをたれかしらゆふ

立三尺五寸

本尊御影 本尊正観音

大師御作

是より屋嶋寺^{やしまじ}迄三里但仏生山へかくるときハ一宮^{やしまじ}屋嶋寺まで三里半又高奈

城下へ行ハ一宮^{やしまじ}屋嶋寺まで四里有也

○かのつの村○大田村八幡標石有○ふせいし村八まん宮○まつなわ村行て大

池有堤を行○北村三十番神宮有過て小川有○ゑびす村○春日村○かた本村これ

より屋嶋寺^{やしまじ}十八町坂地藏堂有

一八十四とやしま寺^じ山上堂はミなミむきやまた郡やしま

坐三尺

本尊御影 本尊千手

大師御作

あつさ弓やしまの宮にまうてつゝいのりをかけよいさむものゝふ

是よりやくりじまで一里有寺より東坂十丁くたりふもとに佐藤次信のはか有領

主より壺丈四方の切石にて壇きつき其上に五尺の石塔を建立し碑の銘あり古の

五輪塔も有後小奈の御宇崇徳元年四月五日に奥州より佐藤氏族のしやもん空信

此はか詣來て回向のまことをつくし

いたはしや君の命をつきのふか印の石は昔ころもきて

とよまれけれハそとは動揺してをしむともよも今迄ハながらへじ身をすてゝ
こそ名をハ次信とはかの中にこゑしけるよし屋嶋軍ゑんきに見えたりそれより
先帝女院幸行の内裏の跡有この所を壇となつけ浦を壇の浦となつく又あい引の
汐にしひがしより汐ミチ南面山のふもとをめぐり兩うミの中辺にて満合たがひ
に引なり此入うミ三町ばかり渡りて奈須の与市駒立岩有又いのり石有其南脇に
すさきの堂本尊正観音大師御作其南に惣門次信射をとさるゝ所有大夫黒といふ
なん馬のはかも有或ハさじきの岡名切水并に瓜生山とて源氏の本陣所あり其外
旧跡かすゝ有惣名はむれ村といふ右の惣門よりやくりへ十八町行て坂

一八十五と八栗寺^{やくりじ}山上堂は南向寒川郡むれ村

煩惱をむねの智火にてやくりをハしゆぎやうじやならて誰かしるべし

立五尺

本尊御影 本尊千手

大師御作

おくの院へハ四丁山上のぼる是より志度寺迄一里半○たい村皆々志有やどかす
此所に道休禪門がはか有此禪門ながく大師に帰命し奉りはき物せずしてじゅん
れいする事十二度すべて二十七度の邊路功なりてつゝに身まかるとて

いままでハとをき空とおもひしにとそつの浄土其まゝ月

皆々御回向頼たてまつる○大町村○しど村町の西に園子尼の寺有本尊文珠ひか

し寺町庄三郎やとかすこの所^{しどじ}方先一日路米なき時有こゝにて調てよし

一八十六と志度寺^{しどじ}南むき寒川郡

立五尺二寸

本尊御影 本尊十一面

ふだらくくハん

音の御作

いざさらバこよハこゝにしどの寺いのりのこゑをミゝにふれつゝ

是より長尾寺迄一里○長ゆく村○ミやにし村

一八十七と長尾寺平地南むきさん川郡なか尾村

立三尺六寸

本尊御影 本尊正観音

大師御作

足曳の山鳥のをのなが尾^㉔秋の夜すからミたをとえよ

註^㉔この文字には「てら」と振仮名があるが文字不明。赤木本でも同様。近藤喜博「四國邊路道指南（抄）」では、「枕」と判読している。

是より大久保寺まで四里〇まへやま〇がく村爰にこま山とて大師御すほうの
所有経さともいふ過て小坂有^{おほくほし}

一八十八番大窪寺山地堂南むき寒川郡

坐三尺

本尊御影 本尊薬師

大師御作

なむやくし諸病なかれとねがひつゝまいれる人は大くほの寺

これより阿州きりはた寺まで五里〇ながの村これまで沓里さぬき分〇大かけ村
これより阿州分〇大のはか村〇ひかひだに村番所切手あらたむ大くぼ^㉕じ寺これ
まで山路谷川あまたあり是よりきりはたしまて一里是迄讃岐廿三ヶ所

註^㉕「じ」と「寺」が重複か。赤木本でも同様。近藤喜博「四國邊路道指南（抄）」で
も同様に理解している。

四箇國惣八十八箇

内二十三箇所 阿州

道法五十七里半三町 四十八町一里

同十六箇所 土州

道法九十一里半 五十町一里

同二十六箇所 豫州

道法百十九里半 三十六町一里

同二十三箇所 讃岐

道法三十六里五町 三十六町一里

〇濃^㉖〇三百四里半餘

註^㉖この三文字には「ミち」「のり」「すべて」と振仮名がふされている。最初の字は道
の本字、次の濃は法の古字『増補字源』『大漢和辞典』であり、「のり」と読むこと
ができる。この二字でみちのり（＝「道法」）と読める。最後の「者」と「邑」のあわ
せ字は 都と同じである。というのは「邑」と「下」はともに「おおざと」と読み、
同義の文字だから、「都」と読むことができる。都には「すべて」という意味がある。
したがってこの三字で「みちのりすべて」と読める。

大師御邊路の道法は四百八十八里といひつたふ往古ハ横堂のこりなくおがみめ
ぐり給ひ嶮岨をしのぎ谷ふかきくづ屋まで乞食せさせたまひしがゆへなりと
云々今ハ劣根僅に八十八ヶの札所計巡拜し往還の大道に手を拱卸代なれハ三百
有餘里の道のりとなりぬ巡禮のはじめたる事。其源不生なり。其功修多羅の中
に説がごとし。こゝをもて俊秀たる高衲。いにしへに徘徊し。錫々たる智杖。
今の世に絡繹たり。わが遍照金剛。道を李唐に得玉しより。其分身くじらよる浦。
善知鳥飛濱まで。勸善懲惡の迹。今世にのこして。會津の鹽。唐濱の貝。ひと
り焼種の膽をひやす。就中南海四國ハ。託生有縁の。ところにして。八十八箇
の精舎歴々とし。緇素老若。今に歩を運ぶ某甲其流に浴する事。年久し。ひと
せ大師八百五十年忌の春。宿願彌芽し。四國邊路道しるへをし。うゐ参の翁。
にしひかしゝらぬ女わらべにたよりせむと。筆を手にし。巡禮かす度して。一
まくりの反古を壊く。しかし神哥の疑しき字つゞき。いち里塚の。つがなき道
法かへて。人のまどひとやらむと。既覆醬とせり。こゝに野口氏我功のなる
事をよミして剗厥氏に命じて。四國邊路道指南となりぬ願以此功德普及於一切
我等與衆生皆共成佛道

皆貞享丁卯冬十一月有辯眞念謹白

梓工傭銀喜捨 大坂西濱町野口氏木屋半右衛門

本願主 全所寺嶋宥辯眞念房（落款1）（落款2）

本出ス所大坂北久太郎町 心齋橋筋 本屋平兵衛